夕刊 いわき民報

▼「いわき民報」は終戦の翌年、昭和二十一年二月に福島県下のトップをきって創刊されました

▼昭和二十一年秋資本金十九万円の株式会社となり、その後増資を続け現在資本金は二百万円。

▼平市をはじめ内郷市、常磐市、磐城市、勿来市の五市と三町四カ村の石城郡内のあらゆる出来ごとをのせるローカル紙として他の追従を許さぬ

最古の歴史

最大の発行部数

最新の設備

をもち、きれいな写真版、効果のある広告、それに連載二千回を越えるマンガ「ヘイさん」は絶対の魅力といわれており、新聞業界でも「ローカル紙」中注目される地位を示しております

いわき民報社の機構

本社　平市田町六三

編集部　電話三八一

営業部　電話一二三二

磐城支社　磐城市沖見町

電話（磐城）五八六

常磐支局　常磐市桜木町

電話（常磐）五三八

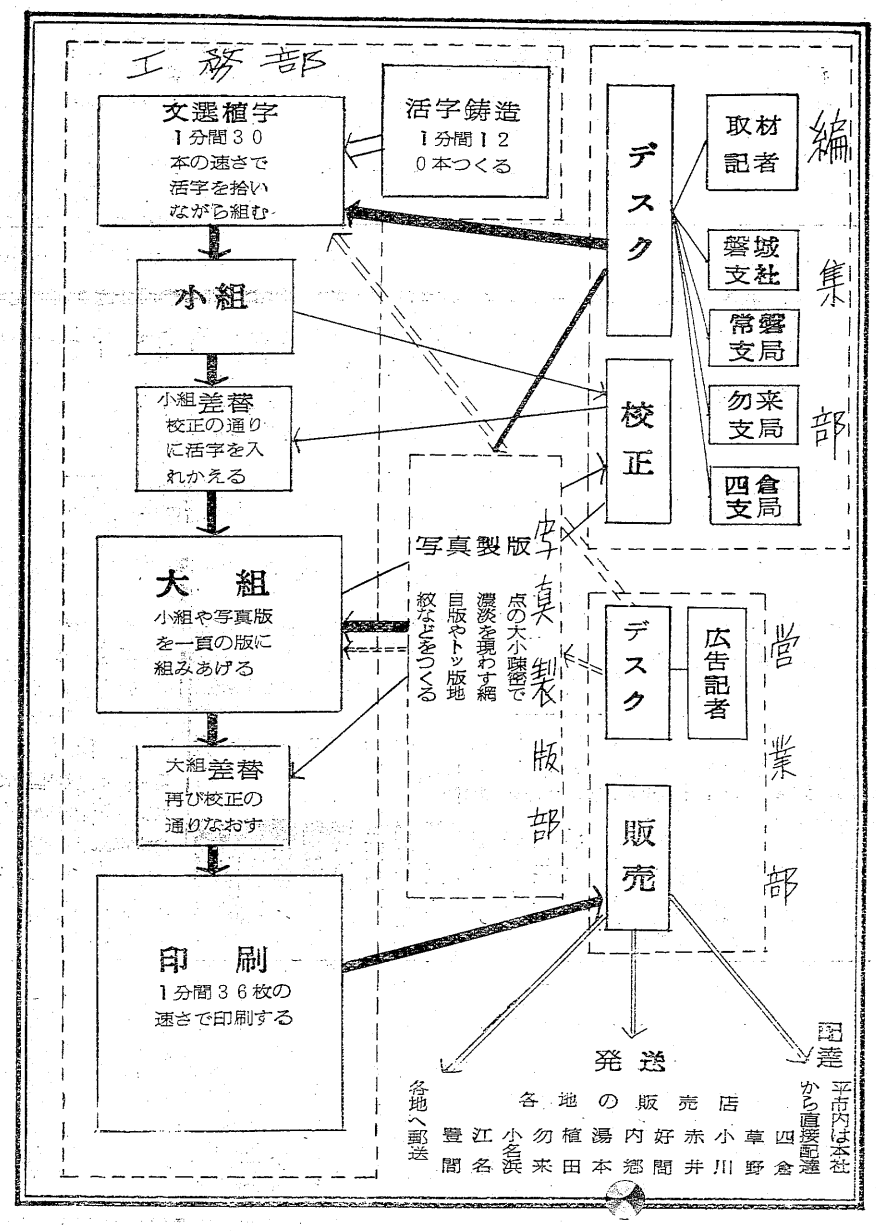
勿来支局　勿来市植田後宿

電話（植田）五〇三

四倉支局　四倉町本町

電話（四倉）三三三

★いわき民報はいつでも、どなたでも購読出来ます。本社、支社、支局へお申込み下さい。直ちに配達します



いわき民報の出来るまで

いそがしい編集部

編集部は新聞社の心臓部です。ニュースの第一線にある取材記者や支社、支局から原稿が集ってきます。原稿が一分でも早く本社に届くよう汽車、電話などを利用して送ります。（本社と磐城支社の間は毎日十二時九分から定時予約通話を使って連絡します）

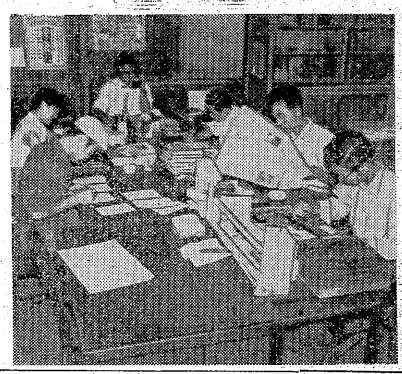
デスクは送られてきた原稿を整理し、記事をまとめ、事件に対する手配をします。ニュースを選んで筆を加えたり、見出しをつけ活字の大きさ（号数）を指定して工務部へ回します。

▽号外＝重大なニュースが起ったときは号外が発行されます。

▽校正係＝新聞の関所です。文選から回ってきた校正刷（ゲラ刷り）の間違いを見つけ、赤インキでいろいろな記号をつかって直します。

最も効果のある新聞広告

新聞広告は申込みが簡単で、すぐよまれ、何回も連載するほど効果も大きい。また広い範囲（石城郡内全部）に配布され、広告料金は一部当りきわめて安く、信用が高められる。広告料の基準はその新聞の発行部数、新聞に対する読者の信用程度、さらにその読者の購買力などがあげられます。印刷された新聞は各地の販売店別に荷造りされ汽車で送られます。東京や九州などでいわき民報を購読している方へは郵便で送りますし、平市内は直接配達します。

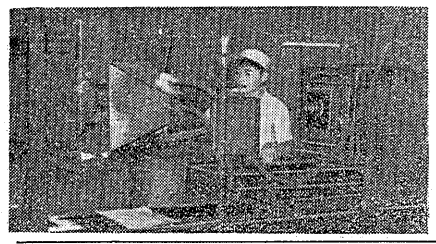


▽広告料一段×一字百円▽購読料一ヵ月百円（郵送百廿六円）

魔術師のような写真製版部

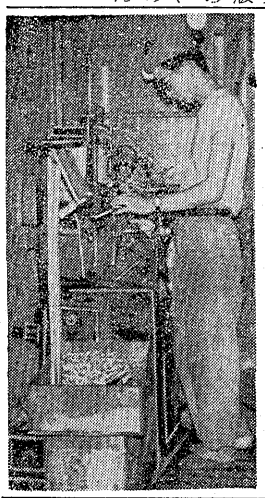
編集部から大きさを指定して製版部に原稿をまわすと、製版部ではガラスの種板に細かい網の目のようなクスクリーンを通して複写し、感光液のぬられた亜鉛板に密着してアーク灯のまえで焼付け、これを現像して硝酸に浸すと腐蝕されて写真版が出来ます。

地図や漫画はトッパンといい、帯のような模様をバックにしたものを地紋といいます。小説のサシエのような版をハイライト・といいます。

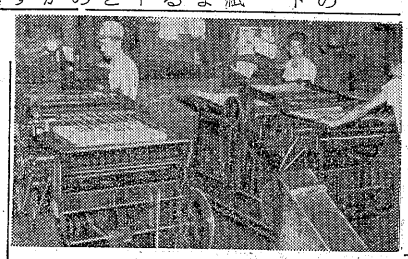


▽写真版の網目は印刷する紙の紙質によってかえなければなりません。普通のザラ紙に印刷する版は六〇線、中質の紙やアート紙などには百二十線というように網の目がこまかくなります。上の顔写真は右から百二十線、八十五線、六十五線で仕上げた写真版です。網の目のちがいをよくくらべてごらんなさい。

いつも新しい活字で印刷



いわき民報をいつも新しいきれいな活字で印刷するため、活字は一度使うと新しく作りかえます。自動活字鋳造機が終日作業をしておりますが、一分間百二十本の速さで活字を作っております。



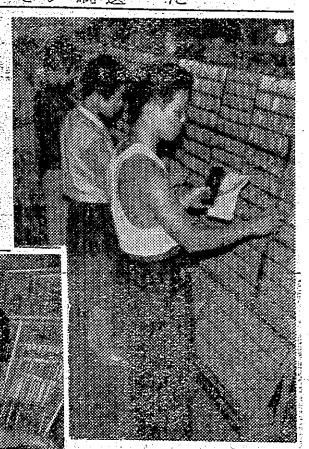
いよいよ印刷

わが社の印刷機はタブロイド版二頁を同時印刷出来る機械が二台ありますから、いわき民報の一面と四面、二面と三面がそれぞれ同時に印刷されます。印刷の速さは一分間に三十六枚で、一時間で三千枚以上の新聞が印刷されます。

広告の原稿は文選のあと植字係が指定通り、体裁やトッパン、写真版などを使って組みあげ、装飾リンカク（花ケイ）でかこみます。記事組みも、写真版も出来た。紙もインクもそろいました。さあ、いよいよ印刷です。スイッチを入れると印刷機がまわりはじめ、みるみるうちに新聞が印刷されて行きます。

戦場の様な工務部

編集部から回ってきた原稿は文選係がギッシリつまった活字ケースの中から拾います。それを文選といい、あとで植字係が指定通り活字をならべますが、新聞の一段十五字詰の記事の部分は特に「ひろい組み」といって文選しながら植字をします。小組の校正刷が校正から戻ってくると活字を差替えます。小組や写真版は大組といって新聞一頁大に組まれます。それを大刷りして最後の校正をします。



機関紙印刷

「モチはモチヤに」といわれるように〝新聞〟を印刷するには〝新聞社〟に限ります。市の公報、学校の新聞、組合や団体の機関紙など各種の新聞が印刷されております。

★新聞を発行されるときはまず一度いわき民報社へご相談下さい。いろいろお手伝いいたします。

新聞活字

いわき民報で使っている活字は全部「新聞規格活字」で一般の印刷活字と寸法が違います。活字は五号活字を基準としてタテヨコ一・五倍を四号、同じく二倍を二号、タテ三倍を一号、同じくタテ四倍を初号と分けられます。

▼活字は鉛（七五％）アンチモニー（二〇％）錫（五％）の合金です。普通のスタイルの活字を明朝（みんちょう）と呼び、肉太な活字をゴシックといいます。活字は各号とも当用漢字を中心に約四千字が用意されております。

新聞活字

初号　一号　二号　四号　五号　六号

本帳

一G　四G